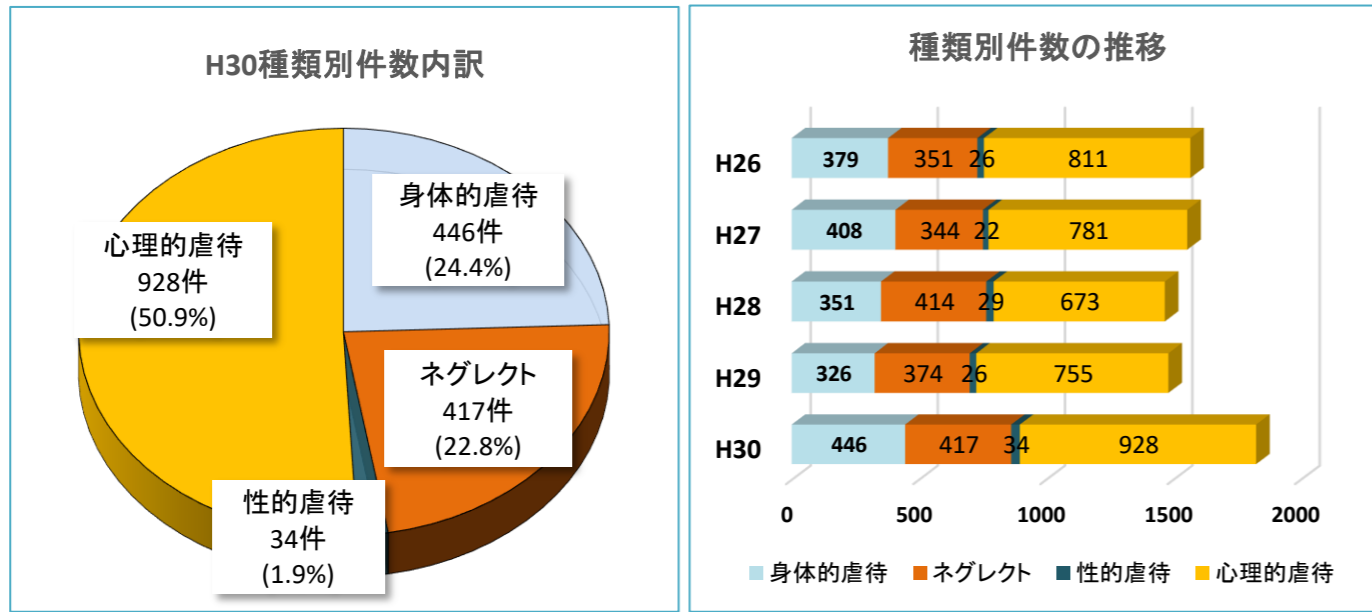
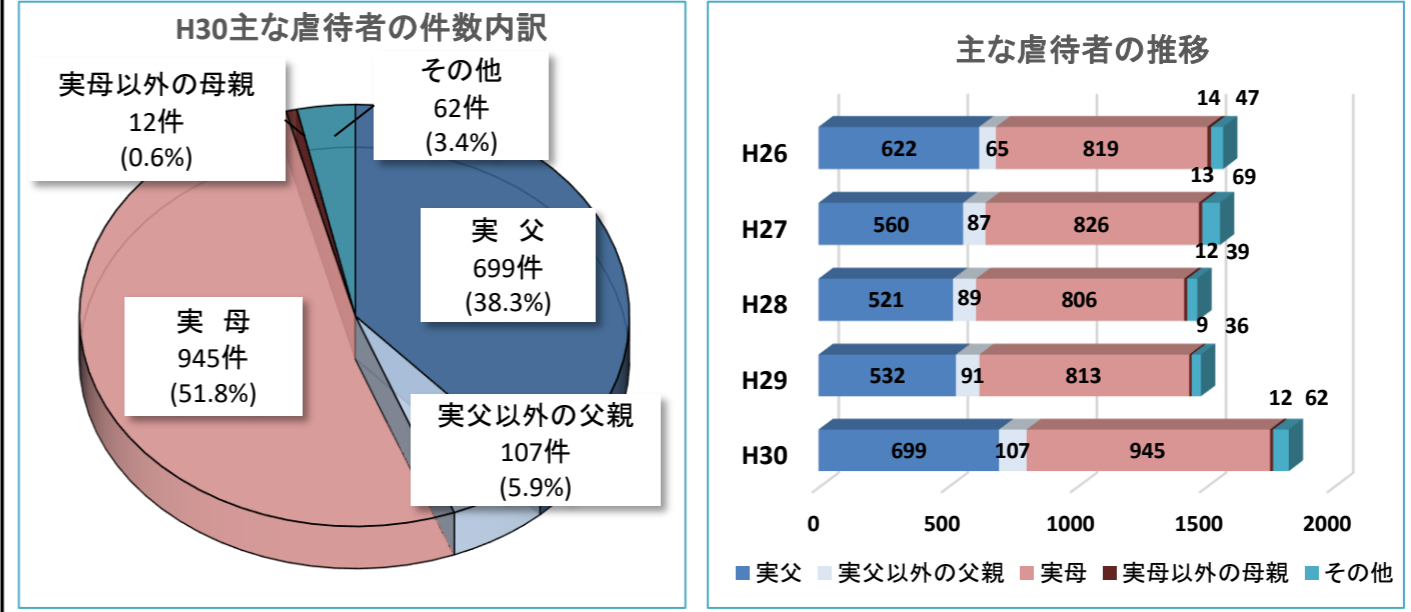


虐待の種類



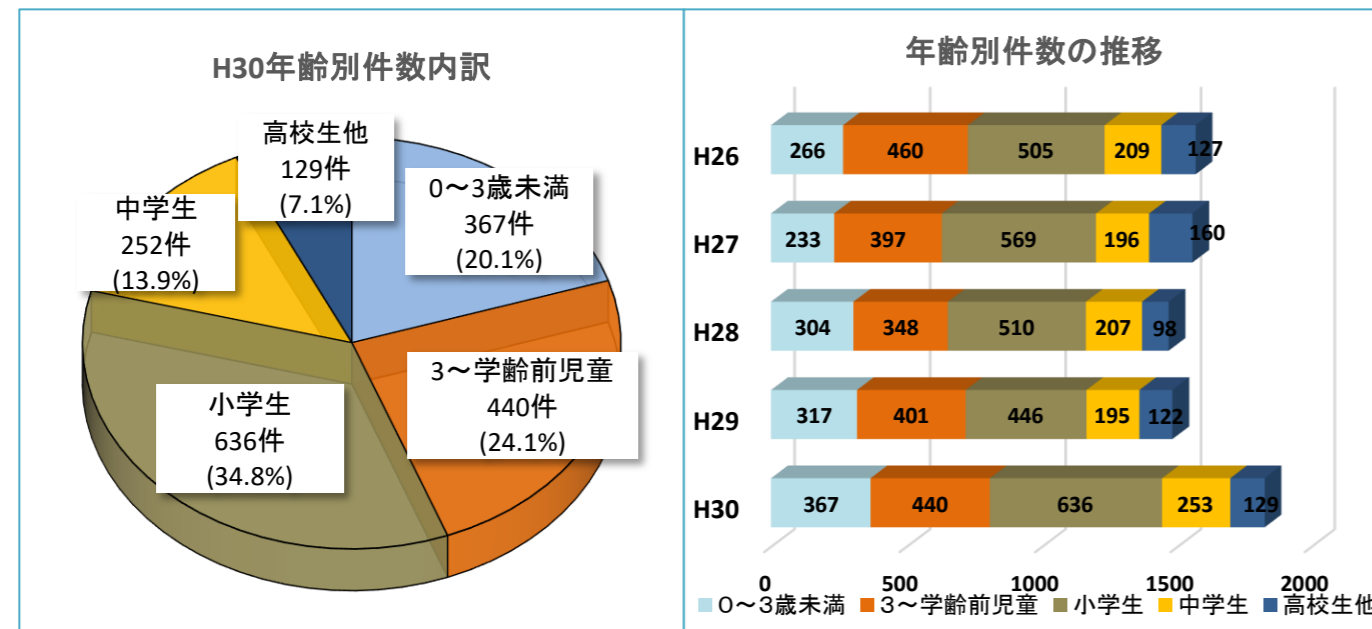
「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較するとすべての種別で件数の増加がみられるなか、「身体的虐待」が120件増(36.8%増)と、最も増加率が高い結果となった。また昨年度と同様、「心理的虐待」が種類別件数の半数以上(50.9%)を占める状況となっている。

主な虐待者



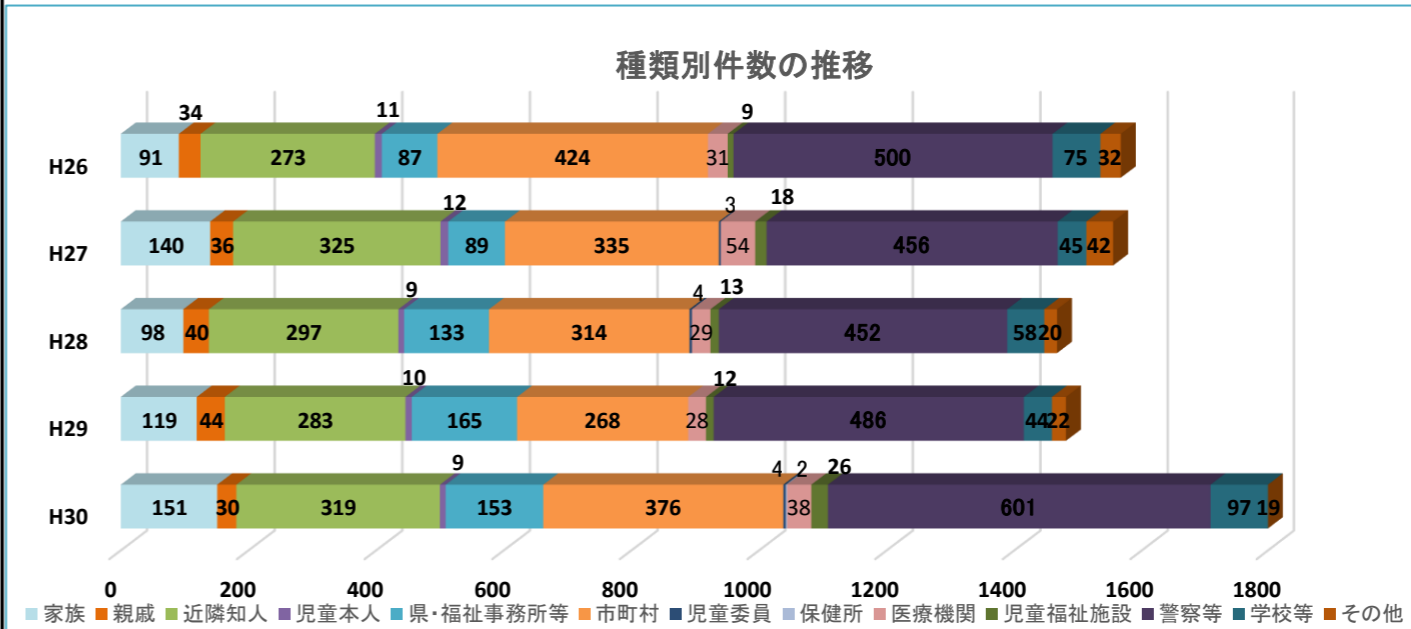
「実母」が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の約9割を占めている。前年度と比べて割合に大きな変化はなく、「実親」のうち「実母」が占める割合が最も多い。

被虐待児の年齢



前年度と比較するとすべての年齢区分で件数が増加しているが、特に「小学生」が190件増(42.6%増)、「中学生」が58件増(29.7%増)となるなど、学齢児の件数の増加率が大きい結果となった。また「0歳～就学前」の被虐待児の割合は全体の約45%に低下しているものの、実数は増加している結果となっている。

虐待通告の経路



関係機関からの通告では「警察等」「市町村」「近隣知人」の順に多い結果となった。特に「警察」からの通告は115件増(23.7%増)、「市町村」からの通告は108件増(40.3%増)となっている。